

OSAKI
1000
BUSINESSES

"Creating a startup ecosystem"

THEME GUIDE 2026 / 応募者向け

テーマ説明書

おおさきオープンイノベーションピッチ 2026

7つのテーマ + 自由枠 で、大崎の次の10年を共につくる。

はじめに —— OIPが目指す共創

大崎で事業を営む企業・生産者と、外から来る挑戦者が、対等な立場で新しい事業を共に立ち上げる場。発表して終わりではなく、事業として地域に残ることを重視します。

目指すのは、**地元事業者と応募者の双方が当事者として手を動かす共創**。応募者の構想を地域に持ち込むことでも、地域の課題を外部に解決してもらうことでもありません。

テーマは、発想を縛るものではなく入口です。

市民意識調査と大崎市・産業支援機関による課題整理をもとに、地域で取り組むべきテーマを7つ＋自由枠として整理しました。どのテーマも、業種や事業フェーズを問わず参加できる広さを持たせています。

7つのテーマ + 自由枠



01

人とモノの流れを再設計する
暮らしの動線を、引き直そう。



02

眠っている空き資源を地域の活力に
変える
眠る資産に、次の役割を。



03

大崎の魅力を、世界と外に届ける
知る人ぞ知る、を終わらせよう。



04

子育て世代が住み続けたいくなる
暮らしをつくる
「ここで育てたい」と言われる街へ。



05

自然と共生する大崎をつくる
自然を、共同経営者に。



06

次の世代に大崎を渡す
(事業承継と人材育成)
事業承継は、変革のチャンスだ。



07

中心市街地に賑わいを取り戻す
通過する街から、寄り道する街へ。



自由枠

あなたの提案。

本書では、各テーマの背景・含むトピック・想定される提案の方向性・想定される地元連携先（業種例）をご紹介します。

人とモノの流れを再設計する

「暮らしの動線を、引き直そう。」

背景 高齢化や免許返納で買い物・通院の足が細る一方、JR古川駅・陸羽東線・みちのくウエストラインなど人と物資が動く軸も持つ大崎。「移動できないこと」と「動かしきれていない流れ」が同時にある地域です。

含まれるトピック

- ・ 高齢者の買い物・免許返納後の移動手段
- ・ 移動販売・出張型サービス
- ・ ラストワンマイル配送
- ・ 陸羽東線の利用促進・沿線活性化
- ・ 古川駅周辺の人の流れ／広域道路の活用

想定される提案の方向性

- 例1** 既存路線・配送網と地域店舗を組み合わせた買い物支援
- 例2** 通勤・通学・観光・買い物を束ねる多目的モビリティ運営
- 例3** 陸羽東線を観光・生活・物流の複合動線として再起動

想定される地元連携先 小売／運輸・交通（JR東日本・地域バス）／観光（鳴子温泉郷）／物流／IT

眠っている空き資源を地域の活力に変える

「眠る資産に、次の役割を。」

背景 使われなくなった住まい・店舗・農地・工場・設備が点在する大崎。雪で傷んだ建物も少なくありません。それらは「使えない資産」ではなく、まだ役割を見つけきれていない資源です。

含まれるトピック

- ・ 空き家・シャッターの下りた空き店舗
- ・ 耕されなくなった農地・休耕地
- ・ 動いていない工場・倉庫・機械設備
- ・ 雪害などで傷んだ建物の再生

想定される提案の方向性

- 例1** 空き家・空き店舗を住まいや事業拠点として再生
- 例2** 遊休設備・工場スペースを別業種・スタートアップとマッチング
- 例3** 休耕地を新しい一次産業や体験コンテンツに転換

想定される地元連携先 不動産／建設／金融機関／農業／製造業／IT

大崎の魅力を、世界と外に届ける

「知る人ぞ知る、を終わらせよう。」

背景 鳴子温泉郷、ササニシキ・ひとめぼれの田園、伝統文化、四季の食材。価値ある資源が揃う一方、域外・海外への届け方が定型的で、閑散期や販路の偏りが残っています。伝え方・届け方を変えるだけでまだ伸びます。

含まれるトピック

- ・ 観光資源（温泉・自然・食・文化）の再編集
- ・ SNS・動画による発信
- ・ インバウンド対応
- ・ 域外向け商品・サービス／食品の輸出
- ・ 食材・加工品のブラッシュアップ策、新たな販路開拓

想定される提案の方向性

- 例1** 観光資源を新しい切り口で編集・発信するメディア／体験
- 例2** インバウンド・首都圏客向けの宿泊・体験・物販の組み合わせ
- 例3** 食材を海外・域外市場に届けるブランディングと販路づくり

想定される地元連携先 観光／宿泊（鳴子温泉郷）／飲食／食品加工／小売・広告／運輸・物流

子育て世代が住み続けたくなる暮らしをつくる

「「ここで育てたい」と言われる街へ。」

背景 預け先・療育・医療・教育・住まいは、住む場所を選ぶ決め手。自然と都市機能のバランスが取れた大崎ですが、子育てのサービスや受け皿にはまだ広げる余地があります。

含まれるトピック

- 子どもの預け先（保育・学童）
- 発達に合わせた療育サービス
- 子育て家庭への日常サポート
- UIターン世帯の受け皿
- 医療機関の連携／学びの環境

想定される提案の方向性

例1 共働き・育児中家庭を支える時間と人手のシェアサービス

例2 専門人材と地域人材を組み合わせた療育・教育プログラム

例3 UIターン世帯向けの定住支援パッケージ

想定される地元連携先 保育・教育／医療・福祉／住宅・不動産／人材サービス／IT

自然と共生する大崎をつくる

「自然を、共同経営者に。」

背景 奥羽山脈の山林、広大な田園、清流に支えられた大崎。同時に獣害、荒廃した山林・農地、後継者不在の一次産業など、自然との距離が変わり始めた現実もあります。自然は守るだけでなく、新しい産業と暮らしの基盤です。

含まれるトピック

- ・ 熊・イノシシなどの獣害対策
- ・ 荒れた山林・農地の手入れと再生
- ・ 地元食材の加工と付加価値づくり
- ・ 林業の再起動・木材活用
- ・ 再生可能エネルギー／センサー・ICT農業

想定される提案の方向性

例1 獣害を抑えつつ農地・山林を維持・活用する技術とサービス

例2 木材・農産物の加工で地域内外に新しい付加価値を生む

例3 センサー・データで人手を減らす農業・林業・エネルギー運用

想定される地元連携先 農業・林業／食品加工／製造業／再生可能エネルギー／IT／自治体・土地改良区

次の世代に大崎を渡す（事業承継と人材育成）

「事業承継は、変革のチャンスだ。」

背景 技術・顧客基盤・信用を積み上げた事業者の多くが後継者不在に直面。外からの新しい技術・資本・経営人材・販路を掛け合わせれば、まだ大きな可能性を切り拓けます。地元の高校生・若手・UIターン人材という次の担い手も育っています。

含まれるトピック

- ・ 後継者不在企業の事業承継
- ・ サーチファンド・承継型スタートアップ
- ・ 承継後のPMI／DX・GXによる再設計
- ・ 技術・技能の継承と人材
- ・ 高校生・若手のキャリア形成／UIターン受け皿

想定される提案の方向性

- 例1** 地元企業を承継し新経営チームとテクノロジーで成長へ
- 例2** DX・GX・ブランド再構築で承継後を強くするPMI伴走
- 例3** 複数事業者をロールアップ統合し業界を地域から再設計
- 例4** 高校生・若手を次の担い手として育てる教育プログラム

想定される地元連携先 承継ニーズを抱える地元事業者／金融機関／M&A仲介・経営人材／商工団体／教育機関／福祉事業者

中心市街地に賑わいを取り戻す

「通過する街から、寄り道する街へ。」

背景 古川駅前を中心とする市街地は、かつて買い物・娯楽・交流の中心でした。今は通過点になりつつあり、空き店舗の増加と夜間の人通りの少なさが目に見えます。一方で再開発や新規出店の動きも始まっています。

含まれるトピック

- ・ 古川駅前・商店街の再生
- ・ 滞在・交流が生まれる場づくり
- ・ 空き店舗を活かした出店・出展
- ・ 若者が集まれる場・コンテンツ
- ・ 夜の賑わい／街なかの体験・イベント

想定される提案の方向性

- 例1** 空き店舗を短期出店・シェア型店舗として活用
- 例2** 夜・週末に人が集まる街なかコンテンツの運営
- 例3** 古川駅利用者と街なかをつなぐ回遊・滞在の仕組み

想定される地元連携先 小売／飲食／不動産／エンターテインメント／観光／商店街組合

FREE ENTRY



自由枠：あなたの提案

「まだ言葉にできていない大崎を、教えてください。」

7テーマのいずれにも当てはまらない、あるいは複数テーマをまたぐ提案を歓迎します。「7つに収まらない＝劣っている」ではありません。私たちがまだ言語化できていない大崎の可能性を、応募者の視点で示してくださることを期待しています。

自由枠でも変わらないこと



事業として残る形を志向

大崎という地域に対し、事業として地域に残る形を志向していること



横断的視点で評価

GX/DX・産学官金連携・対等な共創の横断的視点は、自由枠でも同様に評価対象



共創が前提

地域の事業者・住民・行政との共創を前提としていること

横断的視点 —— テーマを問わず加点

7テーマ・自由枠のいずれに応募される場合も、以下の3つの観点は加点要素として評価されます。



1

テクノロジー（GX／DX） の活用

人手不足や環境負荷といった制約に、デジタル・脱炭素技術を取り入れ持続可能性を実現。技術そのものより、地域での実装のしやすさを重視します。



2

産学官金連携

研究機関の知見、自治体の政策、金融機関の資金・伴走力を組み合わせる。東北大学・地元金融機関・大崎市・産業支援機関など連携相手が揃っています。



3

対等な関係での共創

地元企業と応募者、行政と民間、世代の異なる担い手が資源と知見を持ち寄る。下請け・受発注ではなく、お互いに価値を生み出す関係を志向します。



TO ALL APPLICANTS

応募者の皆さまへ

「大崎にこんな入口があるとは思わなかった」

「この業種の自分が、ここで挑戦できるとは思っていなかった」

—— そう感じていただけるテーマ設計を心がけました。

7テーマと自由枠、そして横断的視点。どこから入っていただいても構いません。皆さまの提案が、大崎の次の10年を形づくる起点になることを楽しみにしています。